『農業経営者』読者の会 会報

# Club BUSINESS FARMERS

Vol.15 2008年11月1日発行 ■発行・編集／㈱農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局（担当：長谷川）
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

CONTENTS

第22回定例セミナー報告
第23回定例セミナー報告
12～2月のイベントご案内
11月の活動・参加申込書

## 5万人都市から車で30分圏内なら、体験農園は成立する

【講師】白石好孝氏（体験農園「大泉 風のがっこう」園主）

### 第22回定例セミナー報告
## ファーミング・エンターテイメント
### ～腹ではなく心を満たす農業ビジネス～

9月26日の定例セミナー講師は、体験農園「大泉風のがっこう」園主白石好孝氏。同氏は体験農園を新しい都市型農業ビジネスとして進化させた第一人者である。若い頃から練馬区という立地での農業のありかたに悩んだという。練馬区の農産物が市場での競争力が弱めるなかで、バブル期には「都市農地は低未利用地」と批判された。

農地を守ろうと意気込んでも近所からは「そうは言っても私は白石さんの野菜を食べていない」と言われた。それらの経験のなかで、都市で消費者を前にして農業するなら、きめ細かく消費者に対応して地域の理解を得られる農業をしなくては、と行き着いた。

ふと周囲を見まわすと、区が運営する市民農園が流行っている。利用料は無料だが、あまりうまくできてない。ならばノウハウも畑も提供する野菜作りのカルチャースクールをやれば、生産だけの農業の替わりになると思いついた。そこで区役所に、区がコストをかけて管理している市民農園を、農家にやらせてくれと提案した。

そこから出発した農業体験農園は、いわゆる市民農園とはまったく違う。農家が開設し、耕作の主導権を持って経営管理する農園であり、生産緑地地区における農業経営である。年間利用料は一区画約30㎡で区民が3万1千

1千円、区外利用者は4万3千円。これは土地の賃貸料ではなく、入園料と野菜収穫代金、つまり収穫物の代金先払いである。園主が定期的に講習会を開催して、利用者は講習会を聞いたあと自分の区画で作業する。園主は収穫祭や交流会といった利用者サービスも行う。同氏は現在125区画を運営、売上は反当約100万円、コストは約3割だ。利用者側は、野菜のいろいろな情報を得るだけではない。会社勤めの中高年には、地域のコミュニティをも提供している。ある利用者が収穫物を小売価格に換算したら8万円相当だったというから実利も相当だ。しかし真の醍醐味は、その先にある。

「初めて種を播いた人が、発芽しているのをみて感動し、私に感謝してくれるんです。新鮮な驚きであったと共に農民であることに誇りを感じました」

農業体験農園のシステムは今、3大都市圏を中心に60農場に展開している。運営ノウハウは無償のフランチャイズとして提供されて全国展開中だ。

「人口5万人の都市から車で30分圏内なら体験農園は成立する。小さな農家が経営として十分成立して、なおかつ農業に誇りを見出しながら、消費者にきちんと農業を伝える。そんな仕組みにしていきたい」

第23回定例セミナー報告

# 生産調整の廃止と直接支払いの導入が日本農業を再生する

(独)経済産業研究所 上席研究員　山下一仁氏

## 農業を保護することと、どのように保護するかは別の問題だ

10月10日の定例セミナーでは経済産業研究所上席研究員　山下一仁氏を講師に招き、グローバル化と人口減少時代の農政改革の必要性、その具体案としての生産調整の廃止と直接支払いの導入について講演を頂いた。

講演の問題意識は、グローバル化と人口減少が今後の農政を規定する要因になるという指摘から始まった。「グローバル化」というのはWTO・FTA交渉で日本が農産物の関税引下げを要求されており、国内農業がそれに対抗するためには国内価格を引下げていく必要があるという現実だ。そして今後進む少子高齢化と人口減少により、コメの総消費は減っていく。試算では現在の900万tから350万tに減っていく予想だ。これだと国内270万haの水田のうち50万haで足りてしまう。つまり現行の生産調整100万haを220万haへ拡大する必要がある。これが同氏の推察する農水省の2050年のコメ産業ビジョンだが、果たしてこれが本当に農政がもつべきビジョンなのか?

理路整然とした講義に参加読者からは「現在の経営を続ける勇気がわいた」「日頃の疑問に簡明な解答を得られた」と感想が寄せられた。

講演では、まず日本の農業保護の構造と原因について米国やEUと比較しながら解説した。関税により高い価格で農業を保護している消費者負担の部分は86~88年から06年にかけて米国37%→17%、EU86%→45%、日本90%→88%に変化している。かつて日本と同程度だったEUはウルグアイ・ランド以降、穀物などの価格を大幅に引下げて、農家に対する直接支払いで補う改革を行なった。価格が高いから過剰が生じ、価格が下がれば過剰は減る。また、それまで米国から輸入していた飼料用穀物に、備蓄していた穀物在庫が使われるようになり、膨大な在庫を消化する効果もあった。EUの事例は、価格を引下げることで消費が増加したことを実証している。

これで明らかになったのは、農業を保護することと、どのような手段で保護するかは別の問題だということだ。目的とすべきは農業の発展や国民への食料の安定供給であって関税の維持ではない。価格維持カルテルであるコメの生産調整(減反)や他の価格支持政策の段階的廃止で価格低下を誘導し、高コストの零細兼業農家は農地を貸し出すようにして、直接支払いを一定規模以上の企業的農家に交付する。これで企業的農家の地代支払能力を向上して、規模拡大による効率化とコストダウンをはかる。価格が国際価格に近づけば、輸出による国産農産物の需要は拡大する。同氏の試算では、コメの直接支払い所用額は、現在生産調整にかけている額と同額であるという。同じ金をかけて消費者価格は低下して、さらに先般の事故米の原因となったミニマムアクセス米も輸入しなくて済む。

より詳しい内容は、セミナー音声のダウンロードで確認して欲しい。

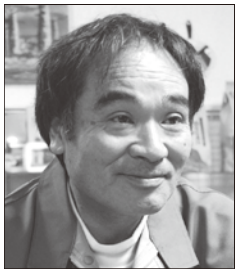
## 2008年12～09月2月 定例セミナー・忘年会・シンポジウム のご案内

**第27回** **12月5日(金)16：00～18：00**
**会場：㈱農業技術通信社内セミナールーム**

㈲農作業互助会　代表取締役
**鈴木博之氏**（すずき・ひろゆき）

### 農業経営者だからできる 機能性食品開発の可能性

昨年12月、福島県大玉村に団子屋「ままや」がオープンした。ただの団子ではない。生活習慣病に対する食事療法に有効とされる低タンパク米「ＬＧＣソフト」の団子だ。この品種はうるちだが、特殊な加工方法で餅と同じ食感にできる。また団子に加工すれば、周年で売れる。農業経営者による機能性食品開発の可能性の広がりを、そのパイオニアが紹介する。



**PROFILE**
1950年福島県生まれ。76年機械の共同利用と作業請負の任意団体を設立。84年㈲農作業互助会を法人化。現在では低タンパク機能性米「春陽」や「LGCソト」など6品種の生産と商品開発を軸に、コメの付加価値化販売を図っている。さらに仲間と組んで、自分達だけのオリジナル品種の開発も進行中。

## 『農業経営者』読者の会 忘年会

今年の忘年会では、本誌連載中「アグリの猫」でお馴染みの高橋がなり氏をゲストに招待します。まずは「いつも農家の前では遠慮しているので、経営者という土俵で本音で話させてもらいたい」という同氏のライブトーク、続いて本誌読者とのガチンコ舌戦！場外乱闘編へ。同氏の隠れファン派はもちろん、ひとこと物申したい派、様子見て考える慎重派、すかさず野菜を売り込む野心派など、皆様のご参加をお待ちしています！

**日　時**　2008年12月15日（月）16:00～20:00
**会　場**　国立ファーム直営レストラン **農家の台所 くにたちファーム**
**住　所**　東京都国立市東1-16-17 ポポロビル南館3階
**参加費**　定期購読者:5,000円、一般:10,000円（共に飲食費込み）
**主　催**　㈱農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局

ゲスト
国立ファーム㈲ 代表
**高橋がなり氏**

プログラム
16:00～17:00　**高橋がなり氏によるライブトーク**
「経営者という土俵で、本音で農業の話をします」
17:00～18:00　**高橋がなり氏＆本誌読者のガチンコ舌戦！場外乱闘編**　※レフリーは本誌編集長 昆吉則
18:00～20:00　**懇親会**

## シンポジウムのお知らせ　2009年 3月開催予定

ウクライナで大豆栽培に取り組む木村慎一さん一行（08年4月）

### 世界を虜にするニッポン農業
～先駆者達から学ぶ、農産物輸出と Made by Japaneseの戦略～

2009年3月、農産物輸出とMade by Japaneseを実践してきた農業経営者を発表者に迎えてシンポジウムを開催します。世界というステージで、日本農業や日本人が持っている可能性を自覚し、我々に何ができるのか、何が不足しているのか語ります。ご関心のある方は次ページ申込書で資料請求をお申込み下さい。

## 2008年11月の活動 定例セミナー

### 第25回 11月7日(金) 16：00〜18：00
**会場：㈱農業技術通信社内セミナールーム**

(独)農研機構理事　中央農業総合研究センター所長
**丸山清明氏**（まるやま・きよあき）

# 日本の農林水産物を愛するお客様のために
## 〜1200張の『緑提灯』が灯るまで〜

「日本産食材の使用量が50%を超えるお店を『緑提灯』でアピールしよう！」という緑提灯運動は、2005年春に北海道小樽の1号店に始まった。その後、参加店舗は全国に広がり、現在は1200店舗を越えている。ユーモアのあるる表現と方法で人々を巻き込んだ運動の仕掛け人、丸山清明氏が1200張の緑提灯が灯るまでを語る。

**PROFILE**
1947 年生まれ。69 年東京大学農学部卒。74 年同大学農学系大学院修了（農学博士）。同年農林水産省北陸農業試験場。97 年農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発課長。以後、（独）農研機構作物研究所長、同北海道農業研究センター所長、農林水産技術会議事務局研究総務官等を歴任。2006 年から現職。

### 第26回 11月28日(金) 16：00〜18：00
**会場：㈱農業技術通信社内セミナールーム**

㈲盛川農場　代表
**盛川周祐氏**（もりかわ・しゅうすけ）

# 畑作の技術で水稲を！ 乾田直播への挑戦

稲作経営を抜本から変える革新技術として注目される乾田直播。海外マーケットへの進出さえも握るこの技術は、稲作経営に携わる者にとって、無視できない存在になりつつある。グレーンドリルを用いた播種体系により、コスト半減を目指した体系化試験を昨年から実施している岩手県花巻市の盛川周祐氏が、今年の結果を報告する。

**PROFILE**
1951 年岩手県生まれ。弘前大学理学部卒業後、就農。当初は稲作がメインだったが、20 年ほど前から転作田を利用した畑作にシフト。作目は面積順に小麦、大豆、水稲、ジャガイモ、ハトムギなど合計 50ha。水稲乾田直播は今年 4 年目で面積は 3 ha。本誌「大規模輪作営農のための乾田直播技術」に好評連載中。

---

## ◎セミナー参加申込
■参加を希望する項目に☑して、必要事項をご記入下さい。

月刊『農業経営者』定期購読者 **無料**

| | 〈セミナー〉 | 〈セミナー終了後の懇親会〉 |
|---|---|---|
| □ | **11/7 （金） 丸山清明**氏（16：00〜18：00） | □ 参加（18：00〜20：00） |
| □ | **11/28（金） 盛川周祐**氏（16：00〜18：00） | □ 参加（18：00〜20：00） |
| □ | **12/5 （金） 鈴木博之**氏（16：00〜18：00） | □ 参加（18：00〜20：00） |

※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者 5,000 円です。
※セミナー終了後には、**懇親会**（会費 1,000 円）を予定しております。

## ◎定期購読申込
■いずれかに☑して、必要事項をご記入下さい。

□ **1 年**（12 冊） **18,000 円**
**送料サービス！**
□ **2 年**（24 冊） **33,000 円**
**お得な3,000円割引！**
□ **3 年**（36 冊） **45,000 円**
**お得な9,000円割引！**

※本誌セミナー（年22回）参加料込（一般5,000円／回）
※本誌セミナー全音声ダウンロード（年22回）込
他、8大特典は本誌p80参照

## ◎忘年会参加申込
□ **12/15（月）**（16：00〜20：00） ゲスト：**高橋がなり**氏

## ◎シンポジウム資料請求
□ **世界を虜にするニッポン農業** 〜先駆者達から学ぶ、農産物輸出とMade by Japaneseの戦略〜（09年3月開催予定）

| お名前 | 会社名<br>農場名 | TEL |
|---|---|---|
| E-mail<br>□セミナー音声聴講パスワード希望 | | FAX |
| ご住所　〒 | | |

**お申込方法** FAX **0120-410-359**まで送信してください。
（『農業経営者』HP **http://www.farm-biz.co.jp/** からもお申込できます）

お問合せ/（株）農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。